

長野日報

Nagano Nippo

ご購入ありがとうございます

10月16日(土)

車いすを車両に乗せるための「リフター」

駒工生が発表

信州共生みらいアイデアコンテスト

福祉や介護分野の課題解決に向けたアイデアを高校生や大学生から募った「信州共生みらいアイデアコンテスト」が16日、長野市内で開かれ、駒ヶ根工業高校（駒ヶ根市）の生徒が車いすを車両に乗せるための「リフター」を発表した。福祉車両の後部に設置したリフターに車いすを乗せ、リフターごと持ち上げて車内に押し入れる仕組みで、低コストで導入できるとPRした。

（唐澤翔）

考案したのは同校機械科3年の小林優也さんら生徒4人。事前に撮影した映像や、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って発表した。車いすを車両に乗せる既存の器具は高額であることに着目し、費用約3万円と低コストでの製作を目指したという。

軽量化にもこだわり、女子生徒でも持ち上げることができ、様子映像で示した。審査員からは「それほど力もいらず、すぐに導入できるかもしれない」と評価を受けた。「落下防止用の柵を付けた方がよい」との助言もあった。同コンテストは昨年度に続き2回目の開催で、県社会福祉協議会が企画運営した。県内の高校生や大学生らでつくる80グループから、多様化する介護・福祉の課題に対応する技術やサービスなどのさまざまなアイデアが寄せられ、この日の審査会では書類による1次選考を通過した13グループが発表した。知事賞などの審査結果は11月3日に公表する。



駒ヶ根工業高校の生徒が考案した車いすを福祉車両に乗せる「リフター」（同校撮影）